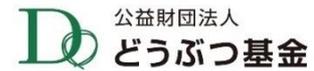


多頭飼育崩壊現場支援報告書



申請 No.2

申請日：2019年04月08日

申請/実施責任者：利府町 生活安全課 環境生活班

場所：宮城県宮城郡

居住者：当事者本人（68歳、女、無職）

居住環境：持ち家/一戸建て

生活保護の受給状況：受給している

多頭飼育現場の猫の総数：50頭※うち4頭は手術済

手術日：05月07日～06月22日

協力病院：フォルテ動物病院

チケット発行数：40枚

手術頭数：37頭（40頭中3頭は手術済みであった）

申請から不妊手術完了までの経緯（報告書より）

1. 4年前に一人暮らしの寂しさから、ノラの雌猫3匹を飼育し始めたのがきっかけ。
2. 室内外の出入りを自由にさせていたため妊娠し、50匹まで増えた。
3. うち4頭は自身で不妊手術を済ませているが、46頭が未手術（手術不可の子猫が6匹）。
4. 近隣住民からの苦情により多頭飼育崩壊の事実が発覚。
5. 動物救護里親の会が中心となって行うこととなった。
6. 手術できる37頭はどうぶつ基金チケットで全頭手術（40頭中3頭は手術済みであった）。

手術日	オス	メス	耳カットのみ	計
05月07日	3	0	0	3
05月08日	2	2	0	4
05月09日	0	5	0	5
05月10日	2	3	0	5
05月12日	0	2	0	2
05月13日	1	2	0	3
05月14日	2	0	0	2
05月15日	0	2	0	2
05月16日	1	0	0	1
05月18日	0	3	0	3
05月19日	0	1	0	1
05月22日	1	1	0	2
06月20日	1	2	0	3
06月22日	0	1	0	1
計	13	24	0	37

【現場写真（支援前）】



【現場写真（支援後）】



今回の取り組みを振り返り、改善すべき点や今後の配慮事項（報告書より）

- ・猫の糞やごみ等が居宅内に散乱し、移動の際に支障があった。
- ・動物救護里親の会の協力により、清掃等が行われ、支障のない程度に回復した。
- ・当事者宅の対象となる猫については、全てチケット有効期限内に終了することができた。
- ・しかし、手術済である耳さきカットの猫に気づかず、捕獲後何度か病院に運搬することがあった。

どうぶつ基金スタッフコメント

今回のケースは、初めの数頭は自身で不妊手術を施しているが、猫の繁殖のスピードに追い付けず、崩壊に至ってしまったケースである。また、中外自由飼いで飼育の為、約4年という間に爆発的に頭数が増えてしまった。今後猫を増やさないためにも、行政と民間の協力のもと、飼養環境を整え、これ以上猫を保護するなどして増やさないよう見守り、適正飼育の指導が必要と考える。